

2023年度「卒業生アンケート」の結果と分析

2023年度の「卒業生に対するアンケート調査」は、卒業生の勤務の状況を把握し、卒業生支援及び在学生の進路支援等教育活動、教育の成果と効果の改善に反映させていくことを目的に実施した。2023年12月に、卒業後3年～7年の卒業生（2014年度入学生～2018年度入学生）1,172件を対象にホームページ、Instagramで回答用QRコードを表示し卒業生に呼びかけを行った。35名が回答し、回答率は2.9%（前年度9.6%）と、前年度と比較し低調だった。教育の成果については、和泉短期大学4つのカリキュラムポリシーをもとにした和泉の10の力の育成についての質問項目とした。

【結果と分析】

1. 調査対象者について

年代は、20代が回答。卒業年度に関しては、2020年卒業生34.3%、2019年卒業生11.4%、2018年卒業生22.9%、2017年卒業生は14.3%、2016年卒業生は34.3%であった。

【分析】

最初の勤務先に勤めていた期間は「5年以内」に退職している割合が最も多く、前年度と比較すると期間が長くなっていた。離職理由については、「職場における業務負担」が最も多く、次いで「他の職種への興味」であった。養成校としては、社会人としての基本である「人間関係形成・社会形成能力」の育成が急務である。また、同時に、卒業生から在校生に向けて就職活動について体験談を伝えていく「社会を知る」機会も保障していくことが重要と考えられる。

働いていない理由については、「求職しているが条件に合う求人がない」、「就職に不安がある」が大部分を占めている。また、不安要素としては、「家庭との両立の不安」「人間関係」が上げられている。必要としているサポート内容として、就職の情報が大部分を占めている。今後は、結婚、出産、育児、介護等ライフサイクルも考慮した働き方の提案、求職中の卒業生と、求人をつなぐ取り組み等、在学中だけではなく、卒業後の継続したリカレント教育を充実させていく必要があると考えられる。

2. 和泉短期大学4つのカリキュラムポリシーをもとにした和泉の10の力の育成について

【分析】

前年度と比較すると、「子どもや利用者の「人権を尊重」16.9ポイント高く、「コミュニケーションに寄り添い受容、共感をして支援」に関しては、14.6ポイント高くなっている。2020年度生より、学習成果の記録を活用しながら、建学の精神についての学びを深める取り組みを実施したため、これまでの取り組みが結果に反映されていると思われる。今後の課題として、アンケートの回答率が、前年度に比べて、低いため回答率を高める対策を講じていく必要がある。